



2024年3月31日発行

## 三軒屋公園

この3月議会で一番の問題。それが三軒屋公園問題でした。志木駅南口にあったホットプラザの代替施設として、東北公民館と三軒屋公園の敷地に複合施設を建設するという計画があるのです。

問題はその建設費が約35億4000万DBO方式での発注で運営費を入れると**15年で65億**もかかることにあります。

この計画に「**市民と語る会**」は反対しました。反対の理由は第一に子ども達の大切な遊び場が奪われる。第二に東北公民館は耐震工事もエレベーター設置も済み、**耐用年数は20年以上**あること。第三に財政面で大いに問題があること。第四に地域住民をはじめとする市民の合意を得てないこと。他にも区画整理でできた公園であることなどをあげて反対しました。

しかし、第二号議案「三軒屋公園等複合施設整備運営事業者選定委員会条例」に最終的に反対したのは「市民と語る会」だけで、残りの会派は賛成したのです。

確かにホットプラザの代替施設は大事かも知れませんが、市民の合意がないまま、15年で65億もかかる施設を急いで建設してどうするのでしょうか。

**DBO (Design Build Operate) 方式**は設計・建設・運営を民間に長期契約委託することで、民間の利益が最優先される可能性があり、**プロポーザル(企画競争入札)方式**に対する透明性にも疑問が残ります。

子ども達の大切な公園を守り、耐震化やエレベーター設置をした東北コミセンを大事につかい、尚且つホットプラザ機能を分散して、既存のビルのテナントに入る...そんな手を使えば、一番安上がりで子ども達も地域住民も喜ぶような気がするのです。みなさんはどう思いますか。



右から恒、健太郎くん、哲義さん。真ん中の二人のテニスのレベルが凄すぎて超楽しかったのです。この試合は左の二人の勝ち!

## たかやんのプロフィール



本名たかむらともや  
54年東京青山生まれの  
新宿育ち。新宿区立西戸山中、都立石神井高、北海道大**庭球部卒**。大学3年の冬、突然教師を目指し、昭和52年新設新座五中に赴任。

校内暴力吹き荒れる時代、新任なのに3年生の担任となり、金八よりも遥かに忙しい教師人生がはじまる。「お前ならできる!」という五中初代校長、中村徹一郎の言葉を信じ、子ども達の力を借りてその1年を乗り越えてから調子に乗る。「たかやん」というあだ名は調子に乗ってた時代に教え子達が付けたあだ名である。

現在6期目。まさかの教師人生と同じ21年目まで来てしまった。「市民と語る会」で上田美小枝とコンビを組んでいる。

**泉房穂、山本太郎、ホセ・ムヒカ、庶民に寄り添う政治家**が好きである。写真はこの春から高校生になる娘の茉由夏です。

## 👤 予算の議会

3月議会は予算の議会です。一般会計は勿論、多くの特別会計(以後特会)の予算も審議されました。

市民と語る会は「一般会計」と「国民健康保険事業特会」「介護保険事業特会」「後期高齢者医療事業特会」の予算に反対。それ以外の「新座駅北口土地区画整理事業」「水道事業」「公共下水道事業」特会予算には賛成しました。

一般会計では共産党が組み替え動議を提出しました。その内容は

1. 障がい者福祉手当の復活5680万円
2. 難病患者支援金の復活650万円
3. 障がい者通所施設補助を見直し前に復活2000万円
4. 障がい者ひとり親家庭で非課税世帯の入院時食事代補助を実施650万円
5. 障がい者の交通費助成を見直し前に復活1200万円
6. 精神障がい者保健福祉手帳診断書助成費770万円
7. 敬老祝い金の額を見直し前に復活770万円
8. 重度要介護高齢者手当金の額を見直し前に復活1570万円
9. 福祉の里体育館夜間利用の復活250万円
10. 市営庭球場の月曜利用の復活170万円
11. 広報にいざを12ページから16ページに戻す(9か月分)450万円。

合計1億3570万円というものでした。「市民と語る会」はこの組み替え動議に賛成討論をして賛成しました。

**11分の6は障がい者福祉関係だったから**です。65億も積み立てた財政調整基金の一部を取り崩せばいいのです。市の財政健全化ばかりに目がいくと、市民の福祉とはかけ離れた予算になっていきます。高校3年生までの医療費の無償化は元に戻りましたが、まだまだ不十分だと思っています。

## 👤 卒業式

議会の合間に卒業式に行きました。最初に行ったのは23歳～33歳まで10年担任をした第五中学校。卒業生達と一緒に五中の校歌を歌い、4月から高校生になる塾の教え子達と一緒に写真を撮りました。



47年前、この教室で僕は初めての教え子達と抱き合って泣きました。23歳の僕と15歳の卒業生。弟のような妹のような子たちとの別れの日でした。



その後直ぐに六中に向かいました。体育館に行くと(写真右から)千恵、浩一、光、そこには六中時代のテニス部の子たちが居てくれたのです。

「え～っ！村山先輩なんですか？」と緑ジャージで1年後輩の千恵。「え？誰だっけ・・・」「一つ下の石垣です。村山先輩のお陰で、心が鍛えられて、どんなことにも耐えられました。」『お前、何やったんだよ！』『何にもしてないっすよ。』もうみんなで大笑い。👤

